

花を愛するオランダの心

平成17年度 アムステルダム日本人学校派遣
玉野市立荘内中学校 片山 明彦
学校だより「ふうしゃ」平成19年9月7日発行 より

先日、オランダに来て初めてアールスメアの花市場を見学してきました。近くにあるのでいつでも行けると思っていたのですが……月日だけが経ってしまいました。

ヨーロッパNo. 1の規模を誇る花市場は、広大な敷地面積があり、花を取り扱う会社の建物や関連の会社の建物も建ち並んでおり、見学者のためのツアー受付にいくまでに道に迷ってしまうほどでした。見学の順路にしたがって市場を見学したのですが、たくさんの種類の花がケースに入れられて、一面に並べられている光景は“見事！Wonderful”の一言です。ヨーロッパはもちろん、世界に向けて花を届けている発信の源を見学できて本当によかったと思っています。春にキューケンホフ公園やキューケンホフ近くのチューリップ畑を見たときの感慨とはまた別の感慨を覚えました。オランダの産業としての花の生産もさることながら、オランダ人のお花好きには感心させられます。どんなに小さな庭でも、手入れをして美しく自分の庭に季節の美しい花を咲かせ、リビングや窓辺にも花を飾ります。「オランダ人はパンを2つ買う金があるとパンを1つ買い、残りのお金で花を買う。」とされています。プレゼントをするために、花屋でブーケを買い求めた帰りにカフェに立ち寄った際に、近くにいた見知らぬ年配の女性が“Mooi (美しい)”と言って、笑顔で声をかけてくれたことがありました。

花を愛するやさしい心が、見知らぬ他人に対するやさしい笑顔に通じているのかも知れないと自分勝手に納得しながら、“ほのぼの”とした気持ちになった一日でした。

厳しい自然と格闘しながら、自分たちの手で運河を造り、干拓してポルダー（干潟）を作り、大堤防を作り、世界に誇る技術と情熱で、ゼーラントのデルタプロジェクトを完成させ、自然と共存する道を切り拓きながら自分たちの国土を作ったオランダ人だからこそ、自然を大切にする思いや花を愛する心が人一倍強いのかも知れません。

最近、気になる日本のニュースを耳にしました。「子どもや若者だけでなく、大人がちょっとしたことで“キレル”ことが多くなった。常識と分別のある大人が精神的に追い詰められている。ちょっとしたミスや間違いを許さず、批判し、責める社会風潮、職場での多大なストレスにさらされる状況が原因の一つではないか……。」と日本のTV報道番組では解説していました。

オランダのようにゆったりとした生活スタイルや寛容の精神を、日本でももう少し取り入れられないものだろうか……と思いながら、アムステルダム日本人学校の校歌の一節を思い浮かべました。

♪薫る花束 あなたにも とともに分け合う やさしさを 集い学ぼう 希望の明日へ♪

<アールスメアの花市場>



レーンによって自動的に競り会場に運ばれる花

PCを使用した最新式の競り会場



集められた色とりどりの花

ほんとうに広い市場一面に並べられた花



広い市場を移動するための自転車

世界遺産：キンデルダイクの風車群



アルクマールのチーズ市

民族衣装の女性（アルクマール）